

平成18年度（第14回）専門医資格認定試験の試験問題について

専門医制度委員会
委員長 杉本寛治

平成18年8月26日・27日に、平成18年度（第14回）専門医資格認定試験が実施されました。今後の制度改善と受験者の便に供するため、委員会は従来どおり、この試験で用いられた試験問題を公表致します。試験方法は、昨年と同じです。以下に筆記試験、口頭試験の全問題文を掲載致します。

1. 筆記試験問題

筆記試験問題の基本的構成は例年どおり、A問題、B問題、C問題から構成されていません。

A問題は、専門医として学んでおくべき基礎知識に関する問題であり、本年度は、労働衛生行政・法規・行政統計、健康・環境管理、統計学に関する基礎的知識等に関する領域から出題しました。

B問題は、専門医として知っておくべき、より専門的な知識を問う問題であり、専門産業医活動を展開するために具備しておくべき、より高度な知識に関する問題で構成しました。出題5問中3問を選択して解答する形式を採用しました。

C問題は、産業医活動に必要なより高度な知識、さらにはそれらの知識を活用し問題を解決する能力を評価することを目的とした設問としました。出題5問中、得意とする領域の2問を選択して解答する形式としました。

A問題:全ての問いに答えなさい(各問4点、40点満点)

- 労働災害の統計指標をあげて最近の労働災害の特徴について述べなさい。
- 労働安全衛生規則に定められている特定有害業務を4つあげなさい。
- 雇入時の健康診断について、正しいものに○、誤っているものに×をつけなさい。
 - () 6ヶ月以内に健康診断を受けている項目は、本人から証明書の提出を受ければ省略可能である。
 - () 40歳未満（但し35歳を除く）は貧血・肝機能・血中脂質・血糖・心電図検査について省略可能である。
 - () 1週間の労働時間数が当該事業場において同種の業務に従事する通常の労働者の4分の3以上であるときは、健康診断を実施する必要がある。
 - () 健診結果は、労働者本人に通知するとともに、「健康診断個人票」に記録し3年間保存することが必要である。
- 海外派遣者の健康診断について、正しいものに○、誤っているものに×をつけなさい。
 - () 労働者を3ヶ月以上海外に派遣しようとする場合や、3ヶ月以上海外派遣した労働者が帰国して業務に就く場合に実施する。
 - () 定期健康診断を3ヶ月以内に受けている場合、当該健康診断の項目に相当する項目を省略して行うことができる。
 - () 腹部画像検査（胃部エックス線検査、腹部超音波検査）、血中の尿酸の量の検査、B型肝炎ウイルス抗体検査、血液型検査（ABO及びRh式）、糞便塗沫検査（帰国後）は、医師が必要と認めた場合に実施する。
 - () 40歳未満（但し35歳を除く）は貧血・肝機能・血中脂質・血糖・心電図検査について省略可能である。
- 派遣労働者の健康管理に関する下記の項目について、責任を負うべきものに○をつけなさい。

	項 目	派遣元	派遣先
1)	雇い入れ時の安全衛生教育		
2)	一般健康診断、当該健康診断結果についての意見聴取		
3)	有害な業務にかかる健康診断、当該健康診断結果についての意見聴取		
4)	長時間労働者の医師による面接指導		

6. 我が国の職場における5S運動について説明しなさい。
7. 「心理的負荷による精神障害等に係る業務上外の判断指針」の基本的考え方について説明しなさい。
8. 輻射熱について簡単に説明し、それが健康管理上問題となる職場の例をあげなさい。
9. 工場の安全衛生管理における色覚異常に対する配慮について述べなさい。
10. 代表値として算術平均値が使用できる条件を列挙しなさい。

B問題:5問中3問を選択して答えなさい。(各問10点、計30点満点)

1. 過重労働による健康障害を防止するために、時間外労働の長さに応じて行うべき事業者の措置について説明しなさい。
2. 妊娠中または出産後の女性労働者に対する母性健康管理に関する事業者の義務について述べなさい。
3. 「心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援の手引き」に示されている復職支援の流れについて説明しなさい。
4. トルエン、スチレンおよびアセトンが使われている事業場の嘱託産業医を依頼された。
 (1) どのような健康障害が出やすいか?
 (2) 測定すべき代謝物は何か?
 (3) 同じような作業を行っているのに、作業員10人のうち8名は代謝物測定結果が分布1、2名は分布3であった。どのような対応策をとるべきか述べなさい。
5. 派遣社員の定期健康診断を、派遣先事業場の社員と一緒にする場合の留意点について記しなさい。

C問題:5問中2問を選択して答えなさい。(各問15点、計30点満点)

1. 中高年労働者が多い某会社から、健康教育の実施を依頼された。産業医としてテーマの選択から実施段階において留意すべき事項について述べなさい。但し、ポピュレーションストラテジーとハイリスクストラテジーの視点を組み入れること。
2. あなたは某電機部品工場の専属産業医である。電機部品組み立て作業の係長から、多くの作業員が頸肩腕部の痛みを訴えているが、どのような対策を実施すべきか相談を受けた。当該作業場における作業関連運動器疾患対策の進め方について、労働衛生の3管理の視点を含め述べなさい。なお、当該職場には50人の作業員が所属している。全員女性で年齢は35歳以下のものが大部分ある。
3. あなたの担当する事業所では、死傷病により休業した場合に診断書の提出を求めています。休業した労働者は、その上司宛に診断書を提出しています。産業医であるあなたは、個人情報保護の観点からこの取り扱いについて、社内ルールを明確化したいと考えています。どのようなルールにしますか。
4. 48歳男性。開発部門の係長。配偶者、配偶者の両親、大学生の長男と高校2年の長女の6人家族。2年前よりうつ病の治療を受けている。6ヶ月より抑うつ状態が悪化し、診断書が提出され休養していたが、本日突然本人が出社してきたと職場より産業医であ

るあなたに連絡があった。本人と面接を行ったところ、本人は主治医からは職場復帰してよいと言われたが、診断書や意見書はないとのことであった。職場に迷惑をかけていることを気にしており強く復職を希望している。現在の状態としては朝5時頃目が覚めてしまい熟睡できず、人と会話することがおっくうであるとのことであった。自宅では妻の両親と同居しており、自宅では十分休養できないので、早く会社に出たいとのことであった。産業医であるあなたは、どのような対応をするか述べなさい。

5. 某総合病院（ベッド数250床、医師30人、看護師270人、その他従業員200人）の産業医として、あなたが新たに選任された。当該病院では、これまで産業医や衛生委員会などは名目のみの存在であり、実質的な活動はなされていなかった。病院内の産業保健を活性化するために、どのような活動を行うか考えを述べなさい。

2. 口頭試験問題

口頭試験では、産業医に必要とされる個別の知識と関連領域の知識との整合性や総合性を試験するとともに、専門医に要求される産業医経験の程度、問題解決能力、総合的評価能力、企画力、対象の観察力、指導性、協調性を評価することを目的としました。

【A1 口頭問題】、【A2 グループ討議】、【B 課題発表】の3種類の口頭試験が、5～6名のグループ5組で実施されました。

A1問題については、大きな分類から小さな各分野へと話を進める基本的な回答方法で回答していただきたい。そのためには、基本的な事項を正確に整理することが必要です。

A2問題について、課題問題の設定条件をよく読みとり、ディスカッションすることが求められており、B2について、設定された条件に適したディスカッションをすることが必要です。

A1 口頭試問：基礎知識を問う問題

1. 平成18年4月1日に施行された改正労働安全衛生法及び関連法令のポイントを述べて下さい。
2. 労働基準法における母性保護措置の概要について述べて下さい。
3. 騒音測定が義務付けられている職場をあげて下さい。
4. 日本産業衛生学会が定めた「産業保健専門職の倫理指針」について述べて下さい。
5. 「労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針」について述べて下さい。
6. 酸素欠乏症がおこりやすい職場をあげて下さい。
7. 一般健康診断において有所見であった受診者の管理区分の決定及び就業上の措置の実施にいたる手順について述べて下さい。
8. 改正された石綿による疾病の認定基準について述べて下さい。

A2 グループ討議

1. 製造工程において石綿の取扱いがある製造工場で、これまでに退職者2名から悪性中皮腫が発生しました。石綿は設備にも用いられており、設備メンテナンスを担当する従業員も少量のばく露があったほか、天井等に石綿が吹き付けられた建屋で働いただけの従業員まで、さまざまなばく露のレベルが存在します。昨今のアスベスト問題の報道を聞き、従業員及び退職者の一部から、「自分は大丈夫か?」、「会社はどうしてくれるか?」といった、相談が会社に寄せられました。どのような対応をとる必要があるのか産業医の立場から議論しなさい。
2. 漬物物製造業であるB社では、約150名の従業員が働いています。製造工程の大半が自動化されていますが、漬け込み作業は手作業で、機械化、自動化は現時点では難しい状況です。漬け込み作業には120名の女性が従事していますが、そのうち約1割がいわゆる「手のかぶれ」を訴えています。しかし、作業の性格上、手袋は使えません。対策について製造部長から産業医にアドバイスを求められました。どのような対策が必要であり、かつ可

能であるかを議論して下さい。

3. 某社の社運を賭けた海外進出の代表者に選ばれたA氏は、赴任地で思うように仕事が進まず悩んでいました。不眠が続き集中力や思考力の低下を感じ、本社健康管理室の保健師に何か良い薬を処方して現地へ送って欲しいとメールで相談して来ました。この場合、健康管理室としてはどのように対処したらよいか議論して下さい。

B 課題発表

1. 事業場の健康管理においては、個人情報保護の観点から健康情報の取扱いに配慮が必要です。メンタルヘルス不調者への対応として、就業上の配慮を含め職場の理解が不可欠ですが、本人の会社に知られたくないという気持ちは大切にする必要があります。メンタルヘルス不調により休業を申し出た時点から、職場復帰に至るまでの各ステップで、産業保健スタッフ以外の関係者への健康情報の提供等が必要な場合があります。この場合どのようなルールが必要か産業医の立場から管理職会議で説明して下さい。
2. あなたは、IT産業（従業員約500名）の嘱託産業医です。産業医には、月一回の職場巡視が義務づけられていますが、従業員の中からその意義がわからないとの声があがりました。職場巡視の意義について、職場集会で話をして下さい。
3. あなたは大手ガラス工場のガラス炉の修理を担当している従業員100名の会社の産業医です。その会社から夏季の熱中症に対する対策を産業医に依頼してきました。従業員全員への教育を含めた対策を安全衛生委員会で提案して下さい。
4. あなたは、スーパーを経営する流通業の産業医です。スーパーでは従業員に占める女性の非正社員の比率がとくに上昇しており、また非正社員を管理者に抜擢するなどの活用が進んでいます。そのため、よい人材を確保し、継続的に勤務してもらうことが、企業の発展にとって重要になっています。人事部では、人材育成、福利厚生面から、女性が働きやすい職場を目指していくつかの取り組みを行っていますが、産業医の立場から、アドバイスしてほしいと依頼されました。人事部の会議で10分間のプレゼンテーションを行って下さい。
5. 従業員1,500名、専属産業医1名、保健師1名、看護師1名の某社では近年精神疾患で休業する人が増加し、事業所長から心の健康づくり対策を進めるよう産業医に依頼がありました。安全衛生委員会の場において10分間でプレゼンテーションして下さい。
6. あなたは都内にある従業員約1,500人のコンピュータソフト会社の専属産業医です。この会社のメタボリックシンドローム対策案を作成し、衛生委員会において10分間で発表して下さい。